

ひなたぼっこ



1 設計趣旨

近年、少子高齢化が進み空家ストックが増えています。今回リノベーションする住宅も持ち主が高齢で施設に入ったことから空家になりました。そんな住宅をこどものための病後児保育施設としてコンバージョンし、困っている子育て世代を応援できる施設を提案します。

1-1 病後児保育施設とは

- ①病気の回復途中にあり通常の集団保育を受けることが難しい子ども
 - ②保護者の冠婚葬祭などの用事で家庭での保育ができない子どもを預かる保育サービスのことです。
 - ・どうしても仕事を休めない時に、泊りかけの子供を預けられる。
 - ・看護師と保育士が常駐しているため安心して預けられる。
 - ・比較的安価に利用できる
- といった利点がある施設です。

1-2 居場所がなく困っている子どもたちへ

全国的に病後児保育施設は増加傾向にありますが、人口に対する施設数は少ないのが現状です。大仙市には病児保育施設はありますが病後児保育施設はありません。病気や怪我が治りかけてはあるものの、空きがなく病児保育施設にも保育園にも行けなくて困っている子どもたちの居場所となる施設を目指しました。

2 コンセプト

～リノベーションだからできる「心も体もあたたかくなれるこどもの居場所」～



住宅のような、安心できてあたたかいところ
病後児保育施設は保育園と違い、ここへ来る子は初めての場所で初めての先生、初めてのお友達と1日を通さなければならず不安でいっぱいです。リノベーション前の住宅の雰囲気を残すことであたたかい安心して居る空間を目指しました。

あたたかい太陽の光をたくさん浴びながら遊べる場所
病後児保育施設は病児保育施設とちがい、回復期の比較的元気な子どもを預かります。既存の緑を残したり、ウッドデッキを加えたりと外へ誘導する機能があることで外で思いっきり遊んで元気になる空間を目指しました。

3 住宅を守っていた敷地



敷地図



beforeの外観

大仙市花館中町
直径1km圏内に中学校、小学校、保育園があり比較的こどもが多い地域です。建物の周りは自然に囲まれているが、少し移動すれば学校や店があり、住みやすい敷地です。建物は屋敷林に囲まれていて安心感があります。